

普通会計決算の推移

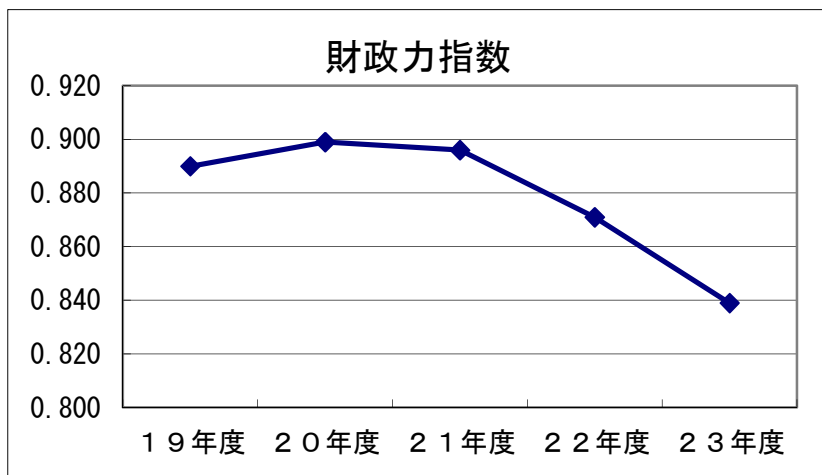
(単位:千円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
歳入総額	23,812,145	23,762,834	25,460,121	24,475,930	23,894,861
歳出総額	22,068,062	22,460,147	23,695,102	23,164,271	22,452,118
差引	1,744,083	1,302,687	1,765,019	1,311,659	1,442,743
翌年度へ繰り越すべき財源	784,588	229,537	786,508	350,096	200,446
実質収支	959,495	1,073,150	978,511	961,563	1,242,297
単年度収支	▲200,515	113,655	▲94,639	▲16,948	280,734
積立金	1,775,771	473,224	494,072	703,764	474,804
繰上償還金	102,672	-	-	-	-
積立金取り崩し額	922,207	1,232,311	1,444,282	-	-
実質単年度収支	755,721	▲645,432	▲1,044,849	686,816	755,538
基準財政需要額	10,278,067	10,437,217	10,344,687	10,395,515	10,786,881
基準財政収入	9,266,169	9,424,681	9,145,186	8,576,166	8,704,773
標準財政規模	13,073,396	13,907,337	14,090,274	14,531,862	14,756,857
財政力指数	0.890	0.899	0.896	0.871	0.839
実質収支比率	6.9%	7.7%	6.9%	6.6%	8.4%
経常収支比率	90.7%	93.3%	93.2%	90.7%	92.7%
公債費比率	8.0%	7.7%	7.6%	8.1%	8.8%
公債費負担比率	9.9%	10.6%	10.5%	11.4%	12.5%
起債制限比率	7.4%	6.8%	6.4%	6.3%	6.7%
債務負担行為比率	3.2%	4.9%	10.0%	8.4%	6.7%
積立金現在高	10,978,048	9,952,793	8,755,686	9,331,464	9,559,089
うち財政調整基金	3,906,745	3,147,658	2,197,448	2,901,212	3,376,016
地方債現在高	17,467,022	18,368,904	19,795,362	20,509,656	20,822,701
債務負担行為支出予定額	1,821,750	4,086,598	3,181,442	2,717,206	2,436,709
地方譲与税	11,214,554	11,318,005	11,026,170	10,712,963	10,633,247
地方譲与税	259,035	249,995	235,507	229,934	224,738
利子割交付金	55,877	54,623	44,832	41,209	30,505
配当割交付金	60,536	25,740	20,391	16,089	35,803
株式譲渡所得割交付金	43,083	8,542	10,490	8,808	7,326
地方消費税交付金	648,136	624,351	658,928	657,797	653,828
ゴルフ場利用税交付金	14,524	14,171	12,923	11,972	11,093
自動車取得税交付金	173,958	140,361	92,110	76,333	65,513
地方特例交付金	67,382	158,555	146,397	159,964	151,002
地方交付税	1,264,547	1,297,981	1,490,276	2,147,037	2,399,662
内訳					
普通交付税	994,320	1,007,959	1,190,189	1,819,349	2,082,108
特別交付税	270,227	290,022	300,087	327,688	317,069
震災復興特別交付税	-	-	-	-	485
小計	13,801,632	13,892,324	13,738,024	14,062,106	14,212,717
交通安全対策特別交付金	15,859	13,885	14,075	13,447	12,418
分担金・負担金	160,468	170,416	180,378	188,514	242,635
使用料	337,956	379,037	365,410	348,702	396,167
手数料	225,271	217,461	206,436	200,887	208,859
国庫支出金	1,573,605	1,961,613	3,519,532	3,497,257	3,297,537
県支出金	939,694	967,147	973,197	1,273,038	1,269,491
財産収入	2,136,786	46,149	44,119	10,750	23,011
寄附金	19,193	26,182	20,440	176,186	10,178
繰入金	1,804,937	1,662,903	1,782,909	187,096	305,357
繰越金	1,308,464	1,744,083	1,302,687	1,765,019	1,311,659
諸収入	197,980	232,234	286,214	304,628	386,832
地方債	1,290,300	2,449,400	3,026,700	2,448,300	2,218,000
歳入合計	23,812,145	23,762,834	25,460,121	24,475,930	23,894,861
人件費	5,312,020	5,204,223	5,160,424	5,059,600	5,044,687
うち職員給与	3,831,802	3,747,955	3,657,538	3,540,928	3,467,930
扶助費	3,213,010	3,460,118	3,679,567	4,978,692	5,440,963
公債費	1,922,655	1,859,762	1,907,779	2,035,823	2,195,457
内訳					
元利償還金	1,922,655	1,859,762	1,907,779	2,035,823	2,195,457
一時借入金利息	-	-	-	-	-
義務的経費小計	10,447,685	10,524,103	10,747,770	12,074,115	12,681,107
物件費	3,623,469	3,653,882	3,836,700	3,711,362	3,807,926
維持補修費	475,503	448,488	428,286	367,807	377,933
補助費等	920,546	876,040	2,147,709	828,175	869,658
経常的貸付金等	70,000	70,000	70,000	70,000	60,000
経常的繰出金	1,160,353	1,522,483	1,638,703	1,609,362	1,711,721
経常的経費小計	16,697,556	17,094,996	18,869,168	18,660,821	19,508,345
積立金	2,745,402	589,396	553,780	762,874	532,982
投資及び出資金貸付金	38,836	40,058	35,262	32,693	33,069
繰出金(経常的繰出金除く)	329,547	120,194	187,039	292,876	233,577
投資的経費	2,256,721	4,615,503	4,049,853	3,415,007	2,144,145
うち人件費	294,806	293,952	286,553	284,778	289,071
内訳					
普通建設事業費	2,255,582	4,615,503	3,931,624	3,415,007	2,138,390
内訳					
補助単独	424,216	870,850	182,952	1,005,332	428,141
災害復旧事業費	1,831,366	3,744,653	3,748,672	2,409,675	1,710,249
災害復旧事業費	1,139	-	118,229	-	5,755
歳出合計	22,068,062	22,460,147	23,695,102	23,164,271	22,452,118

※普通会計は地方財政統計上統一的に用いられる会計区分です。

普通会計…一般会計・障害者就労支援センター事業特別会計・霊園事業特別会計・土地区画整理事業特別会計を統合して一つの会計としてまとめたもの

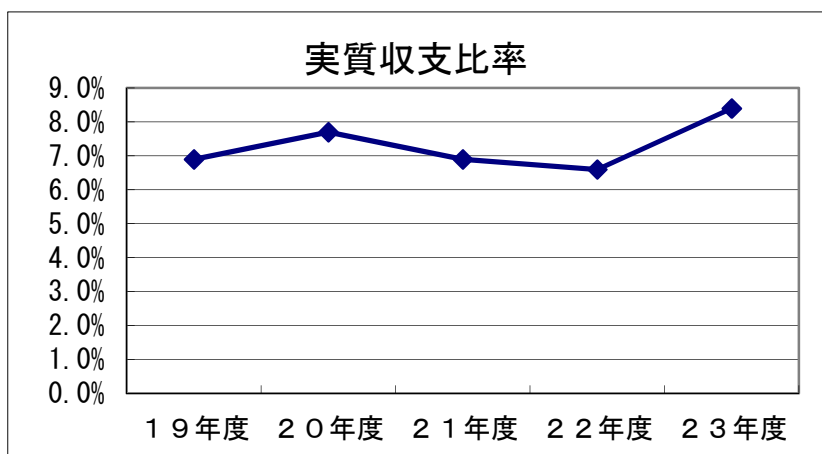
普通会計決算の推移



○財政力指数

財政力指数は、地方公共団体の財政基盤の強弱を示す指数で、標準的な行政活動に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表しており、普通交付税の算定基礎となる基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の3ヶ年平均値をいいます。

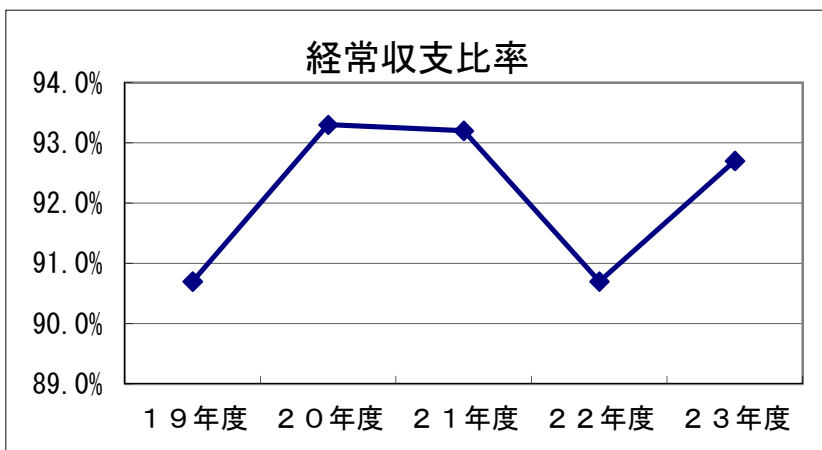
財政力指数が1を超えると普通交付税に頼らないで財政運営を行う不交付団体となります。



○実質収支比率

実質収支比率とは、標準財政規模に対する実質収支の割合をいいます。実質収支は、その年度に属すべき収入と支出の実質的な差額（形式収支から繰越すべき財源を差し引いたもの）、つまり市町村の「黒字」または「赤字」を意味します。

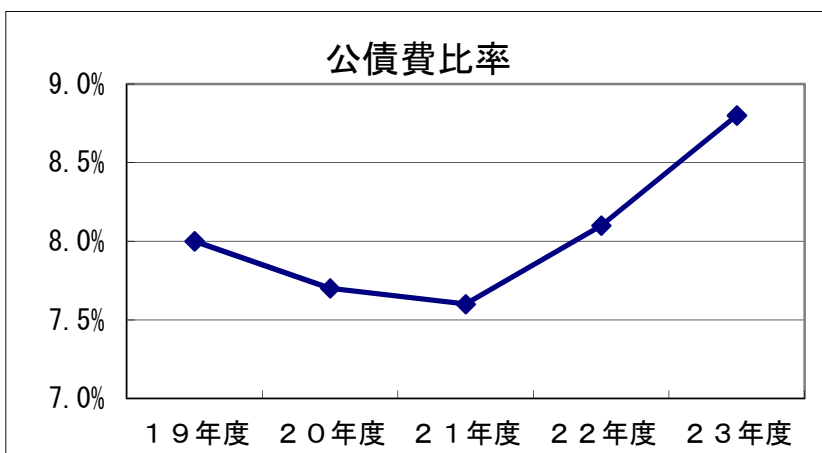
一般的には、3～5%程度が望ましいとされています。



○経常収支比率

経常収支比率とは、税などの一般財源を、人件費や扶助費、公債費など経常的に支出する経費にどれくらい充当しているかをみることで、財政の健全性を判断します。この比率が高くなる程、公共施設整備など投資的な経費に充当する財源が少なくなり、財政運営が厳しくなります。

都市にあっては70～80%にあるのが望ましく、80%を超えると財政構造の弾力性が失われつつあるといわれています。



○公債費比率

公債費比率とは、税などの一般財源をどれくらい借入金の返済である公債費に充当しているかの割合を表しています。

地方債元利償還金（普通交付税において災害復旧費等として基準財政需要額に算入された部分を除く）に充当された一般財源の標準財政規模に対する割合です。

一般的には、10%を超えないことが望ましいとされています。